



あいおい子ども食堂

代表 丹羽 政文

1、 あいおい子ども食堂の紹介

桐生市の相生町2丁目にある桐生協立診療所の2階を会場に、5月から毎月第3土曜日の午前11時から2時まで行っています。料金は無料ですが、大人の方にはカンパの協力をお願いしています。食材は近在の農家さん、北関東フードバンクさんなどから無償でいただいています。また、炊飯器などの調理器具も寄付をいただき実施にこぎつけることができました。

運営はボランティア会員によって行われており、現在会員数は30人に達しています。資金は賛助会員からの会費や一般の方からの募金によって賄われていますが、先般『「子どもの貧困」問題に役立てて』という、団体からの寄付もあり、やはり「子どもの貧困」問題が社会的にも大きな関心になっている事を実感しています。

メニューについては食育の視点と、地産地消にこだわりながら野菜ソムリエを中心に決めています。9月に群馬県からの助成金が決定になり当面、資金の問題では一息つけそうですが、継続した開催のためにバザーや物品の販売などを行うとともに、ボランティア会員、賛助会員の拡大、募金活動に取り組んでいます。



子ども食堂を開設して気がついた事があります。それは、食材や調理器具を提供いただく方々が喜んで支援をして下さり、時には「逆に感謝されているのかな」と思うような事が多々あります。また、運営に携わるボランティアの皆さんも実に生き生きと活動しています。ある方は「良い活動

場所を紹介してくれた」とスタッフに言っていたそうです。こうした皆さんの思いに「あいおい子ども食堂」は支えられながら運営されています。

2、 設立の経緯

群馬中央医療生活協は基本方針の中で、「社会的孤立・子どもの貧困対策、居場所づくりを進める」事を掲げており、前橋では無料学習支援「広瀬川教室」を開設しています。そこで「桐生では子ども食堂をやろう」と組合員に呼びかけ。昨年12月に4人で活動を開始しました。早速趣意書を作り様々な方面に働きかけを行いました。協立診療所の組合員さんをはじめ、若者の発案で立ち上げたフェイスブックにより、瞬く間に賛同する個人や団体からの応募がありました。

会場については桐生協立診療所が相生の中心的な位置にあることから最終候補となりました。保健所に「子ども食堂」開設の相談をしたところ「営業許可」が必要であり、その設備基準では診療所2階での開設は不可と言う事でした。「営業」でもないのに「営業許可」ということに理不尽さを感じましたが、食べ物を扱う事でもあり、やむなしと判断しました。診療所からは「設備を改修して開設を支援したい」という回答を得、桐生市の副市長、教育長、教育委員会、福祉課に支援を要請することができました。

その後設備改修が行われ「営業許可」を取得、食品衛生協会に加入して利用者を対象とした保険、スタッフのボランティア保険にも加入し、安全を期しました。

3、 4月22日プレオープン、 5月から正式に実施

プレオープンに際しては二つの小学校の校長に挨拶に行きました。さらに二つの私立保育園へチラシ配布を依頼、二つの団地に800枚のチラシを配布しました。当日のメニューはカレー、

サラダ、おひたし、手作りドーナツ、来場者は大人29人、子どもは12人、ボランティア20人でした。調理担当の奮闘で予定数30食の2倍以上の70食を提供しました。チラシを見て来たというお年寄りは「いつも一人で食事をしているのでみんなと楽しく食事ができて良かった。また来てもいいかい」とおしゃっていました。しかし、今回参加のお子さんの多くはスタッフが直接呼びかけたご家族のお子さんであり、子どもの貧困というキーワードに照らしてみれば課題を残す結果となりました。

5月20日第1回は来場者が大人8人、子ども4人、4月22日のプレオープンに比べ少ない来場者にスタッフは「今後お客は来てくれるだろうか」と不安になりました。



宣伝や呼びかけを強めなければならぬと、6月からは、みどり市の大間々東小学校、私立・公立保育園にもチラシの配布を依頼しました。公民館にもチラシを置かせてもらい、行政区の区長にも支援を要請し快く引き受けてもらいました。

6月からは来場者も毎回30人を超えるようになっています。リピーターも何組か出現、チラシを見て来たという孤食のお年寄りも来場、チラシの効果が現れてきています。

4、「子どもの貧困」をキーワードに 始まった子ども食堂 行政も支援を決定、 民間団体も、広がる支援の輪

群馬県も資金の援助を決定、群馬県社会福祉協議会は子ども食堂交流会を実施、民間団体も交流会を実施、上毛新聞、FM群馬でも紹介され支援の輪が広がっています。

今、全国的に「子どもの貧困」が大きな問題になっています。孤食の子どもや十分に食べることができない子どもが多くいることはマスコミ等

でもたびたび取り上げられています。「子どもの貧困」は親の貧困です。この間、労働者派遣法の改正などにより、非正規労働者が全労働者の40%近くまで増加、とりわけ子育て世代の低賃金が問題になっています。さらにこの10年間で母子、父子家庭が増え、世帯収入が低下しています。若者の就労支援、非正規労働から正社員への道を作ることが喫緊の課題です。この問題は国をはじめ行政が取り組まなければならない課題ですが、子ども達を巡る状況はこうした課題の解決を待ってからというわけにはいきません。私たちあいおい子ども食堂は「子どもの貧困」の問題を何とかしたいという思いを集約する形で「できることから始めよう」を合い言葉に立ち上げたものです。私たちの小さな取り組みが社会的な課題として認識されることを願っています。



一方高齢者の孤食の問題も深刻です。一日中家に引きこもり一人で食事をとっている方も大勢います。私たちはこの子どもと高齢者の孤食の問題を少しでも改善することができればと考えています。小さいお子さんを抱えたお母さん、お父さん、年齢を問わずどなたにも利用していただき気軽に食事をし、交流もできる場を提供したいと思っています。

5、どんな子ども食堂をめざしたら良いか

私達の取り組みが、直接子どもの貧困に作用できているのかは今わかりません。いずれにしても継続した取り組みが解決すると考えています。

今後、地域の「居場所」の1つとして、食育の視点から考えたおいしい食事の提供と遊びの場、学習支援、相談活動に取り組みたいと考えています。さらに運営が軌道に乗れば回数を増やしたり別の場所での開催も検討しています。